

歴史的建造物における木製窓の改修

「温故知新」に学ぶ

IWS(株)

技術アドバイザー 飯田 信男



写真_1 改修工事が終了した旧三菱鉱業寮



写真_2 復元再生された上げ下げ窓

1.はじめに

弊社、IWS（株）は、木製窓や木製ドアを主に製造販売している。これらの木製品は、その建物の歴史的な表情を作り上げる重要な建物の顔である。しかし、木製窓は腐りやすく塗装のメンテナンスが不可欠である。

これを怠りそのままにしておくと、窓の下部等が腐り（写真_3 参照）折角の歴史ある建造物も台無しになってしまう。



写真_3 腐ってしまった窓枠

2.歴史的建造物における木製窓の問題点

木製建具の問題点は構造が複雑で、水分が溜り易く、どうしても腐りやすくなってしまい、永く使えないということである。

3. 木材処理技術の画期的な進歩により、60年使える窓が出来るようになった。

創建時の姿をそのまま残すことは重要であるが、木の外部建具は腐り易い。そこで弊社では2,000年頃より世界各国で研究され始めた、高耐久性木材を窓に利用する研究を始めた。

このことにより、木材の大きな欠点であった『腐る』ということがほぼ皆無の窓製品の開発が可能となった。腐らなければ、多少のメンテナンスは必要であっても、60年の耐用年数は不可能ではない事がこの10年の試行錯誤で明らかになってきた。

実は、高耐久性木材は、先人たちの知恵「焼きスギ」(写真_6 参照) 等から生まれたものである。太古の先人たちは木材を熱処理すると飛躍的にその耐候性が上がることをよく知っていた。

我々は温故知新の世界から木材の新しい利用技術を垣間見たのかもしれない。



写真_6 現代風の焼きスギ

<五千年前から同様な方法で木材の耐久性を上げる処理がされていた>